

中国における商業銀行の国際展開

呉, 博宇

<https://hdl.handle.net/2324/4784393>

出版情報：九州大学, 2021, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



氏 名	呉 博宇			
論 文 名	中国における商業銀行の国際展開			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	岩田 健治
	副 査	九州大学	教授	加河 茂美
	副 査	九州大学	准教授	堀井 伸浩
	副 査	九州大学	名誉教授	稲富 信博

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、中国における銀行業の国際展開について歴史・理論・実証の観点からアプローチすることで、21 世紀に入って急速に進む中国大手商業銀行の国際化・多国籍化の現状と意義について総合的に考察を行っている。

本論文の意義として、以下の点を挙げることができる。第 1 に、20 世紀初頭に始まる中国銀行業の国際化には、華僑送金を軸とする独自の展開があったこと、戦後の社会主義体制下では香港の「中銀集団」が国際業務を継続したこと、こうした「中銀集団」の組織と経験は 1978 年の「改革開放」以降、商業銀行が早期に国際展開を再開する際の基盤となったことを、明らかにしている。第 2 に、主に欧米で発展してきた多国籍銀行論を、段階区分の視点を導入しながら 21 世紀以降の中国商業銀行に適用することで、中国商業銀行の多国籍化の現状を分析し、そこに先行組と後発組が存在することを指摘している。第 3 に、実証面では、中国の銀行が自国企業をフォローする形で現地に進出していることを確認した上で、華僑との繋がりが重要な要因となっていることを検証するとともに、現地銀行市場の収益性が重視されつつあることを検証することで、先行組が「多国籍リテール銀行業」の段階に突入したことを明らかにしている。

全体として本論文は、中国銀行業に係る歴史研究を踏まえつつ、多国籍銀行論を現代中国銀行業に本格適用し、独自データ等を用いて実証分析を行うことで、2010 年以降の中国商業銀行の急速な国際化・多国籍化が有する普遍的な性格と中国独自の特殊的性格とを示すことに成功している。中国の有力商業銀行が近年開始した「多国籍リテール銀行業」の現地展開の様態等に関しては一層の解明が期待されるが、これらの点は本論文の価値を損なうものではなく、今後追求すべき課題に属する。

以上の理由により、本論文調査会は、呉博宇氏より提出された論文「中国における商業銀行の国際展開」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。